

「TOKYO MARATHON 2017 完走記」

大分市 小野 寛



抽選倍率が十数倍で、ほとんどあきらめていた東京マラソンの出場権が突然舞い込んできた。日程を調べると、大会は2月26日で、残すところ4か月余り。年内にフルを2回走り、年明けにハーフのレース、さらに30キロ走などを行い、大会に備えようと計画を練った。年が明けて大会が近づき、ホームページでコースの確認などしていると、次第に高揚感が増してきた。練習はほぼ予定通り消化できた・・・つもり。

前日、空路東京入りしてランナー受付の東京ビッグサイトに向かう。国際展示場駅からビッグサイトへ通じる一帯は、MARATHON FESTAの会場で様々な催しが行われており、人で溢れていた。人をかき分けながらやっとのことで受付を済ませる。それから、ゴール後の日比谷公園が気になっていたので確認に寄り、その後宿泊先の新宿へ地下鉄を乗り継いで行くが、ホテルに着いたのは6時過ぎで、すでに夜の帳が下りていた。

当日は、早く目が覚め、窓から外の様子を確認すると、快晴で風もあまりなく、絶好のマラソン日和になることが予想できた。7時前に出発、定められた自分の入場ゲートに向かうが、都庁周辺のスタートエリアは、すでに規制が敷かれており、1時間以上要してやっとゲートに着き、厳しいチェックを受けて通過した。流れに沿って決められたカテゴリーに移動したが、次々と選手が集まりアップはおろか、ストレッチさえもままならない状況で、ひたすらスタートを待つこととなった。

9時10分にスタートの号砲と花火が上がった。待ちに待ったスタートであったが、一向に前に進めず、小池都知事の見送りを受けたのは5分以上経過した後と思われた。それでも東京のど真ん中を走れる喜びをかみしめながら、神田、日本橋、浅草、両国、深川と走り、折り返して銀座4丁目あたりで30キロを通過した。時計を確認したが、目標タイムに大きく遅れており、モチベーションが下がってしまう。右手に東京タワーや増上寺を見ながら日比谷公園を南下、品川駅付近で折り返して、重い足を引きずっていると、沿道から『残り5キロ頑張れ！』の声援を受けるが、ピッチも膝も上がらず、スピードが落ちていくのがよく分かる。最後は丸の内の石畳のような狭いコースを抜け、皇居方向に左折するとフィニッシュゲートが見えた。都庁前のスタートからゴールまで、絶え間なく続く沿道の大応援に力をもらい、何とかゴールできた。

帰りの機内では、完走はできたが今一つ自分の走りができていなかったのではとの思いがよぎった。なれない東京に来たこと、セキュリティー対策のために、スタート前等における規制の厳重さ、“とみくじ”はそんなこともなく、気ままに自分のペースで準備ができるし、声援は少ないが案山子の出迎えを受け、国東の起伏に富んだ自然のコースを自由に走れる。そんなことを思っているうちに眠ってしまった。

「東京マラソン2017を走って」

大分県国東市 齊藤 史浩



今回、私は2月26日に行われた「東京マラソン2017」を走らせていただきました。

一昨年出場しました、とみくじマラソンの着順抽選により権利をいただいたからです。

まず、25日に東京ビッグサイトにて前日受付をしました。会場では、前日にもかかわらず、警戒態勢が厳しく、出走者のみが専用のバンドを着用し、EXPO会場に入るという完全に隔離空間でした。これはセキュリティ全般を受け持つセコムの本気がうかがえました。会場では、アシックス、大塚製薬等のスポーツではおなじみのメーカーから、公式時計のセイコー、緊急の際に使用するAEDを提供する日本光電など、たくさんのメーカーが宣伝活動を行っていました。会場も広く、迷子になりそうでした。受付の際に着用したバンドは、当日マラソンを走り終えるまで外すことができないとスタッフに注意を受けました。

当日、5時に起床、6時過ぎにホテルを出発し、スタート地点の東京都庁に向かいました。駅を出てすぐ、出走者しか入れないゲートがあり、約400メートル程した所にスタートラインがあり、ここでもセキュリティの完璧さを感じました。午前9時10分スタート。新宿、千代田区、東京駅と、テレビでよく見る場所を走ることができ感動しました。途中のエイドも、水、スポーツドリンク、あんパン、ゼリー、あめ、チョコレートなど、スタッフ側が用意したものから、沿道の応援者が用意したものまで、たくさんの種類があり、空腹になることはありませんでした。浅草、日本橋、港区と、レースも終盤にさしかかり、35キロ手前で東京タワーが見えてきました。上ばかりを見て走ったので、首が疲れました。ゴールは今回から東京駅がゴールになり、ラスト2キロは道路幅も狭くなり、すごく沿道の応援が身近に感じました。

ゴールタイムは3時間14分7秒でした。自己ベスト更新はなりませんでした。一生に一度あるかないかの経験をさせていただき、私のマラソン人生にとっても貴重な経験をさせていただきました。このような機会を与えて下さった、とみくじマラソン実行委員会の方に、深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

「東京マラソン2017に行ってきました。」

大分県別府市 荒金 通子



何時か参加したいなと思っていた「東京マラソン」。思いがけず、出場枠の抽選に当たり参加できるチャンスを与えてくださった「とみくじマラソン大会」に感謝いたします。大会参加が決まり、制限時間内に完走しようと少しだけ練習をしたことも私にとっては、大きな成果でした。予想もしないチャンス、ありがとうございました。

いよいよ大会へ、ランナー受付は、2月25日に世界各国からの参加者で溢れる東京ビッグサイトにて済ませた。セキュリティバンドの使用等、スポーツイベントとして世界最高峰といわれる大会と感じた。凄い大会に参加できた喜びを感じた。

大会当日は、手荷物預け用の袋が予想以上に小さく最低限の着替え以外は宅配便にて送るようにし、混雑を避け7時過ぎホテルを出発、7：30入場ゲート、手荷物検査・セキュリティチェック、手荷物預け、7：45スタートブロックへ。10：00スタートまでの2時間をじっと立ったままで待つのがとても長く、寒すぎて足の指の感覚がなくなっていた。ウインドブレーカーを着用していたが、2月下旬の東京は寒かった。雨でなくてよかったと思いました。

スタートの号砲が鳴り、いよいよかと思ったが、全然進まない。ゼッケンLの誘導開始は、それから待つこと20分、やっと待機場所から道路へ移動。まだまだ誘導付きで、スタート地点まで移動。ここまで何分かつたかは覚えていない。コースは平坦でアップダウンがなく記録を出そうとするランナーにとっては有利に思えた。途中の25キロ過ぎまでは人・人・人。参加人数多さは、全てが想像以上の混雑で人の靴のかかとを踏んだり、踏まれたりの状況。トイレに行けば、20分待ち。エードでは飲み物も給食も食べつくされていたり、紙コップが無いので次のエードまで持って行ってくださいということがあったり、いろいろなことを経験した。

一日を振り返れば、スタートからゴールまで天気にも声援にも恵まれ、身も心も温まり、暖かく走ることができ、いつもローカルな大会ばかりに参加している私には、良い刺激を受けることが出来た一日となりました。記録証はスプリットタイム、ラップタイムまで記されたものが3月下旬に届き、遅い私も大切に扱われているのだと嬉しく思った。

今回は抽選で参加いただきましたが、次回は自分で申込、ゆっくり時間をとり、東京見物を兼ね、のんびり参加できたらと思いました。

最後に「とみくじマラソン大会」のますますの発展と新たな挑戦（人と人をつなぐ、地方と都市をつなぐ）に期待をいたし、お礼の言葉とさせていただきます。